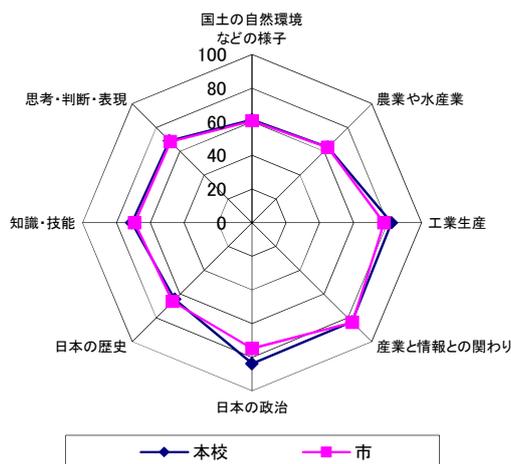


宇都宮市立錦小学校 第6学年【社会】領域別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度		
		本校	市	参考値
領域別	国土の自然環境などの様子	61.2	60.5	65.8
	農業や水産業	63.4	63.3	66.0
	工業生産	82.4	77.9	75.7
	産業と情報との関わり	83.3	83.8	76.6
	日本の政治	83.8	74.9	74.1
	日本の歴史	64.5	66.3	68.3
観点別	知識・技能	71.0	69.3	71.4
	思考・判断・表現	68.9	68.1	66.4

※参考値は、他自治体において同じ設問による調査を実施した際の正答率。



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

領域	本年度の状況	今後の指導の重点
国土の自然環境などの様子	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は61.2%で市とほぼ同等だった。 ○日本の周辺の海洋名について問う問題では、正答率が80.4%で市より6.1ポイント高かった。 ○季節風についての理解をもとに、太平洋側の気候の特色を雨温図から読み取る問題では、正答率が60.8%で市より5.4ポイント高かった。 ●森林を守るための間伐について問う問題では、正答率が72.5%で市より10.2ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の国土の特徴はよく理解している。森林を守る活動や公害問題など、日本の自然環境とわたしたちの生活についての内容も復習する。
農業や水産業	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は63.4%で市とほぼ同等だった。 ○輸入などの外国との関わりにおける課題について考える問題では、正答率が72.5%で市より5.3ポイント高かった。 ●日本の主な食料の自給率についての理解を問う問題では、正答率が31.4%で市より4.9ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本の食料自給率について復習したり、日常生活の中で自給率のことを話題にしたりして、学習したことが生活と結びつくようにする。
工業生産	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は82.4%で市より4.5ポイント高かった。 ○日本の主な輸出品・輸入品についての理解を問う問題では、正答率が66.7%で市より10.2ポイント高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自動車がつくられる過程や、使い終わった自動車が再利用されることについてよく理解している。また、輸出品・輸入品の内訳についても理解していた。今後も、日本の工業生産について外国との関わりにも着目しながら復習していく。
産業と情報との関わり	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は83.3%で市とほぼ同等だった。 ○産業における情報活用の現状について考える問題では、正答率が76.5%で市より1.7ポイントとやや高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちの生活と情報の関わりについて、今後も関心を持ち、多くの情報を有効に利用できるよう、視聴覚教材や資料集などの資料を活用しながら復習する。
日本の政治	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は83.8%で市より8.9ポイント高かった。 ○租税の役割について、資料を読み取る問題では、正答率が90.2%で市より18.7ポイント高かった。 ○議会政治について、資料をもとに考え表現する問題では、正答率が62.7%で市より9.7ポイント高かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 国民生活の安定と向上のために、税がどのように使われているのか、実生活での例も挙げて定着できるようにする。また、国民として、政治について考える機会を設け、政治に関する興味を高める。
日本の歴史	<ul style="list-style-type: none"> 平均正答率は64.5%で市より1.8ポイント低かった。 ○大和朝廷による統一について問う問題の正答率は80.4%で市より17.8ポイント高かった。 ○雪舟についての理解を問う問題の正答率は64.7%で市より11.1ポイント高かった。 ●天皇中心の政治の様子や日本風の文化が生まれたころの様子についての問題では、正答率が54.9%で市より13ポイント低く、豊臣秀吉の業績について問う正答率は、52.9%で市より14.7ポイント低かった。 	<ul style="list-style-type: none"> 歴史についての理解は、定着している内容としていない内容の差が大きかった。関連資料や視聴覚教材を用いながら、出来事と時代背景やその時代に生きた人々の生活など、関連付けて復習する。